



第147号

令和8年

3月17日発行

雲



「やる気スイッチ」はどこにある？

校長 岡 秀 樹

「なるにはボックス」をご存じでしょうか？ このシリーズは、創刊が昭和四六

(一九七二)年という職業ガイド本の老舗であり、現在では一五〇種類を超える本がラインナップされています(さすがに「ユーチューバーになるには」は刊行されていないようです)。保護者の皆さまの中にも読んだことがあるという方もおられるのではないのでしょうか。

さて、近所の図書館を訪れた際、リニューアルされた「中学校・高等学校教諭になるには」が新刊コーナーに並んでいました。「この令和の時代、私たちの仕事はいつたどのようにならなければならないのか」と思わず手に取って読んでみました。「人間のゴールデンタイムにある若者たちと語り、かわり、貴重な時間をともにする仕事」「生徒のスイッチを入れることのできる存在」「教師自身もまた、生徒たちに教えられ、エネルギーや刺激をもらいながら生きていく」などの言葉が序文から次々と繰り出され、久しく感じたことのないような熱い感情が心の奥底から湧き上がってきました。

「そう、まさにこれが教師のやり甲斐、醍醐味なんだよ。よくぞ言ってくれた!」そんな気持ちになりました。と同時に、「自

己肯定感」という言葉がふと心に浮かびました。

自己肯定感について、文部科学省は以下のように定義しています。

自己肯定感については、勉強やスポーツ等を通じて他者と競い合うなど、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感や他者からの評価等を通じて育まれる自己肯定感と、自らのアイデンティティに目を向け、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を冷静に受け止めることで身に付けられる自己肯定感の二つの側面から捉えることが考えられます。

〔教育再生実行会議第十次提言〕

平成二十九年による)

そして、教育の中で子どもたちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手となるよう、自己肯定感を育む取組を進めていく必要性についても言及しています。

学校において、自己肯定感を育む場面はたくさんあります。まずは、褒めるということが考えられます。「自分はホメられて伸びるタイプです」と自ら宣言する強者も

おりますが、確かに即効性は高そうです。

そして、褒めるよりも、もう少し心の奥の方で効きそうな声掛けとして自分が心が

けてきたのは、その生徒の個性をうまく価値付けてやり、鼓舞することです。「励まし」「ねぎらい」というのが近いかもしれませんが。特に高等学校においては、生徒個々の価値付けポイントを見つけてやるのが大切だと考えます。そう、まさに世間で言われるところの「やる気スイッチ」です。

先述の「なるにはボックス」でもスイッチについての記述がありました。押しさえすれば、生徒の心に火がついて自走し始めるが、そう簡単には見つからない…。ちなみにネットで見つからないと、このスイッチは脳の中にあるという説が多いようです。ビジュアルイメージとして、背中にスイッチがあるというイラストも多くみられました(そのデザインはTシャツ、持っています)。ただ、仮に、見つかったとしても、スイッチをオンにしないと意味がないというのがまた難しいところです。

スイッチとは言うものの、実際は、一つ上のステージにいくとすると、あるいは満たされず逆境にあるときなど、生徒自身が変りたいと心から願うことで起動するシステム、これがやる気スイッチの本体なのではないでしょうか。そして、その状況を作ること、適切な声掛けをすることが私たちの担当する部分です。その意味で、やる気スイッチの起動は生徒と教職員の共同作業・真剣勝負といってもいいかもしれません。

やる気スイッチ起動は、高等学校の永遠のテーマです。教職員一同、さらに努力していきますのでご期待ください。



未来創造部



前回（第146号）は、一年生「産業社会と人間」のプログラムについてご紹介しました。今回は、二年生「総合的な探究の時間」のプログラムをご紹介したいと思います。

一年生の終わりに「未来創造探究Ⅰ」で、データサイエンスの視点に基づく統計処理や問いの立て方などを学び、模擬探究を通して探究の基礎スキルを身につけた生徒たちは、二年生の前半、「総合的な探究の時間」でそれぞれの進路希望や興味ある学問分野等からテーマを設定し、そのテーマに対する仮説・検証を繰り返す「未来創造探究Ⅱ」を実施します。この探究は生徒一人に教員一人が担当としてつき、個別指導を通じて実践的に行われる個人探究です。今年度は、約半年間の活動を通し、学び得たことを8月26日（火）に全員がそれぞれのクラスで、またその中で代表となった者が9月9日（火）に一・二年生及び外部有識者の前で発表しました。

二年生の後半では、前半で取り組ん

だ個人探究を地域の課題解決に活用する「雲南式探究」が始まります。この探究は分野別のゼミに分かれ、その中で設定したテーマによりさらに班を分けながら行うグループ探究です。この探究活動には、各ゼミの担当教員に加え、その分野の課題に精通する地域の方や、より専門的な知見を持つ大学・専門学校等の方にアドバイザーとして加わってもらい、生徒が大人たちと一緒に取り組んでいきます。今年度は13ゼミ33グループに分かれて探究活動を進めてきました。この成果を2月26日（木）に、一・二年生や地域の方、専門家の方などをお招きして行う「探究アワード」で発表します。

このように、二年生は二つの探究活動に取り組むことで、自らの将来や学術的興味に関して学びを深めるとともに、地域に貢献するための手立てを具体的に考える機会を通じて視野を広げ、自身のこれからの真摯に見つめていきます。生徒たちの可能性を伸ばし、主体的な進路選択を促進して、そ

の実現を果たしていく力を育成することも、これらの探究プログラムがねらいとするところです。

実際、学校評価（4点満点）において、一年生からは「産業社会と人間」や『総合的な探究の時間』、文理選択などを通して、地域の課題や自分の将来について考えることができましたか」という問いに平均3.4点（4点満点）、肯定的回答率93.0%という結果を、また二年生からは「『総合的な探究の時間』（探究学習）によって、他者との協働や自分の考えなどを表現できるようになりましたか」という問いに平均3.6点（4点満点）、肯定的回答率96.9%という結果を、それぞれ得ることができました。生徒自身も手応えを感じる結果になっていることを、たいへん嬉しく思っています。今後とも、三刀屋高校では、生徒の学びが深まり、将来の進路への意識が高まるような探究活動のあり方を工夫し、日々改善を加えていきたいと考えています。

男子ソフトボール部

河角海輝

私たち男子ソフトボール部は、3月に高知県で開催される全国選抜大会に出場します。昨年度の同大会では2勝を挙げ、ベスト16という成績を残しましたが、目標としていた県勢初のベスト8にはあと一步届きませんでした。今年のチームはその経験を糧に、基礎を大切に練習に取り組んでいます。守備や打撃練習では、選手間で積極的に意見を交わし、トレーニングでは各自がメニューを考えることで、不足している部分を補いながら個々のレベルアップ

にも取り組んでいます。大会では、どんな相手にも臆することなく、日々支えてくださる先生方や家族、地域の方々への感謝を胸に、チーム一丸となって精一杯頑張ります。応援よろしくお願ひします。



女子ソフトボール部

松島玲奈

私たち女子ソフトボール部は3月に大阪府で行われる全国選抜大会に出場します。新チームになり上手くいかない事の方が多く意見がすれ違うことも多々ありました。その度にミーティングをして話し合ってきました。チームワークはこのチームにも負けないくらい良いと思います。私たちは全国制覇を目標に日々部活動に励んでいます。トレーニングやしんどい練習メニューの時こそ「明るく・元気に・チームワーク」でとみんなで言い聞かせ合いながら練習に取り組んでいます。今まで色々な試合で悔しい思いをしてきた自分たちだからこそできる試合があると思えます。自分たちの力を発揮できるようにチーム一丸となって一戦一戦やりきります。保護者の方や地域の方々、応援してくださる皆さんに結果で恩返しができるよう、常に挑戦者という気持ちで選手全員が覚悟を持ちこの選抜大会で一勝ずつ掴み取っていきます。応援よろしくお願ひします。

自分たちの力を発揮できるようなチーム一丸となって一戦一戦やりきります。保護者の方や地域の方々、応援してくださる皆さんに結果で恩返しができるよう、常に挑戦者という気持ちで選手全員が覚悟を持ちこの選抜大会で一勝ずつ掴み取っていきます。応援よろしくお願ひします。



男子バスケットボール部

佐藤慶克

僕たち男子バスケットボール部は11月に行われた選手権に出場しました。選手権ではベスト4を目標にしていました。一回戦では浜田商業と対戦し最後に点差をつけて勝ち切ることができました。二回戦では松江商業と対戦し点差をつけ勝利することができ、三回戦ではベスト4シードを持つていた松江北と対戦しました。接戦の末勝ち切ることができ、目標にしていたベスト4になることができました。準決勝では松江東と対戦し、フィジカル

や技術、体力ともまだまだというところを突きつけられ敗北しました。結果的に目標に届くことができたので満足の行く結果でしたが、これからはもっと良い結果を残せるように頑張りたいです。



JRC部

吉岡菜々子

「全国ボランティアアワード2025」において『日本赤十字社JRC賞』、「島根県高文連青少年赤十字研究発表」において『最優秀賞』（および来年度の全国総文祭への代表権）、教育長より『島根県児童生徒学芸顕彰』を受賞できました。今年度のテーマは『神楽でつなぐ地域の絆と防災力』です。中山間地の緊要は「とりこぼしなく命を守る！ 具体的に動く！ 自助・共助の防災です。地域に根付く神楽「ヤマタノオロチ」は、度々氾濫する斐伊川のこととも言われています。そこで私たちは、親しみやすく＆心にグツとくる『神楽×防災体験』をオリジナルに企画しています。それだけでなく、たくさんの方々に体験してもらい、動ける人の輪を広げていきます！



生徒会Ⅱ内閣

生徒会長 黒田若佐

伝統ある三刀屋高校の生徒会長という大役を担わせていただけることに、身が引き締まる思いと同時に、とても光栄に思います。突然ですが、私は今の生徒会の形を「内閣」のようなものだと考えています。日本の内閣は、総理大臣を中心に各分野の大臣を集めて国を動かします。三刀屋高校も同じです。生徒会長である私が信頼できるメンバー（大臣）たちと力を合わせ、生徒（国民）を第一に考えて学校運営をしていく。これはいわば、黒田内閣です。

高市首相が日本の未来を背負うように、私も三刀屋高校の未来を背負っています。学校運営に対する自覚と覚悟を持って、新たな試み（政策）を打ち出して実行していくことが私の使命です。歴代の先輩方が築き上げた伝統を受け継ぎつつ、私らしい新たな色を加えて、一人ひとりが自分らしく輝ける学校を作っていきたいです。黒田内閣は、これからも生徒（国民）に寄り添い、ご期待に添えられるよう精進してまいります。

